

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070103142		
法人名	有限会社ネオファミリー		
事業所名	ネオファミリー・和歌山	【ユニット名【ユニット名:】 さくら	
所在地	和歌山市田中町2丁目19番地		
自己評価作成日	平成23年11月17日	評価結果市町村受理日	平成24年1月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は和歌山市の中心市街地に位置し、一般住民も入居する7階建ての2階・3階を改築しグループホーム(2ユニット)を運営しています。敢えて市街地で運営するというには意味があり、元々人家や商店等が多く立ち並んでいる環境で生活されていた方々も居るなかで、そのような方々にしてみれば、最も安心でき、やすらぎを感じられる土地柄ではないであろうか、という意味合いからであります。そのような環境の中でネオファミリー(新しい家族)として職員全員が我が家のように、感じてもらえる介護を実践しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3070103142&amp;SCD=320&amp;PCD=30">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3070103142&amp;SCD=320&amp;PCD=30</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成23年12月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

マンションの2・3階にある2ユニットのグループホームである。買い物や交通の利便性があり、すぐ側には中学校や公園もあり、地域住民の生活が感じられる環境である。入居者が「ネオファミリー」の生活に溶け込み、家庭的な雰囲気支援のなかで居心地よく生活できるよう取り組んでいて、自然と皆がリビングに集まってきて入居者同士や職員との関係も良好に保たれている。管理者や職員のケアに対する思いが強く、開設から9年の歴史の中で経験したことを活かして心のこもった暖かいサービスを提供できるよう努め、会議や勉強会を通じてスタッフ間の意思統一が図られている。医療機関と連携体制が構築されており、重度化やターミナルの支援にも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念(地域と歩み・やすらぎ・よろこび・安心・地域と共に)の重要性を全職員が日頃認識し、入居者と地域とのつながりの大切さを理解している。	理念を食堂の壁に掲示している。職員全員が理念を実践できるように意識し、管理者やリーダーが中心になって話し合いの機会を持ち、日々の業務で理念を共有できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の清掃活動を入居者と共に実施している。現状近隣住民とのつながりは深いものとは言えないが、地域への参画に努めている。	週2回のゴミ収集日に合わせてマンション周辺の清掃を入居者を交えて行っている。また、常時職員がいることで、事業所がマンション住民から頼りにされる存在となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長への訪問、又、近隣住民への訪問等当施設の存在をアピールし、近隣からの介護相談を受けるケースもある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス内容の報告・相談より、運営推進会議メンバーの評価・助言を頂き、サービス向上に反映している。	2ヶ月に1度実施しており、会議で出された意見をサービス向上に反映できるよう取り組んでいる。出席者に家族以外の地域住民がなく、職員や家族など事業所内のメンバーが中心の構成となっている。	いろいろな立場の地域住民の参加が得られるよう、意見を述べやすいようなテーマを設定したり、出席しやすい曜日や時間帯を検討するなど、更なる努力に期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課や地域包括支援センター職員と連携・相談し、運営推進会議や入所事案においてケア内容・課題を話し合い助言を頂き、相互関係を構築している。	市役所と近距離にあり、介護保険課へは出向いて相談や報告を行うことが多いことから、市職員とも顔見知りとなり良好な関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待防止法も含め、全職員が身体拘束0を理解し、個々の尊厳を重要視している。又、内部研修により、自己研鑽にも努めている。	事業所内の勉強会でも取り上げ、言葉による拘束など目に見えない形の拘束も意識して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中、各フロアのエレベーターに通じる入り口は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修等、高齢者虐待防止についての理解を深めており、事業所内に身体拘束ゼロ宣言等掲示、日々啓発をおこなっている。		

【事業所名】ネオファミリー・和歌山 ユニット名:さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用される入居者等、その事例も含め制度のあり方・重要性を会議等で学び、話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、入居者及び家族に説明し、理解・納得、署名を頂いている。又、入居後のフォローにも重点を置いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、面会時等家族への報告・要望を聞き、施設向上の為に活用している。入居者同様、家族に対し全職員が話し易い環境作りにも取り組んでいる。	設置している意見箱に投函されたことはないが、個々の入居者や家族が意見を出しやすい関係作りを心がけ、要望にはできる限り迅速に対処している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員個々の面談を通じ、ケアに関する問題点、意見を聞き、働きやすい職場づくりの取り組みをおこなっている。	管理者と職員の関係性は良好であり、外部研修で学んだこと等を事業所内で発表する機会を設けて話し合い、サービス向上に努めている。また、職員の前職を活かした意見や提案を取り入れ反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の健康管理を含め、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内を全職員に回覧し、知識向上への啓発をおこない、会議等において介護技術及び知識向上に向けて取り組んでいる。又、自発的な意見を引き出し、自己の向上に繋げるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	広範囲におけるネットワークは構築されていないが、同業者との交流の中で、運営に関する情報交換は行っている。		

【事業所名】ネオファミリー・和歌山 ユニット名: さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者及び家族からの情報収集を生かし、入居者への関わりを密に図ることで、不安を排除し、安心感を抱いてもらうよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が持つ悩みや要望を引き出しケア内容に組入れることで、不安を回避し、家族との関係の構築を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者・家族が今現在何を求めているか、率直な意見を聞き、その課題をケアマネ他スタッフ間で検討し実行対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活におけるメリットの意味合いを十分理解し、孤立感をもたさず、入居者間の繋がりに重点をおきケアしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時及び連絡にて状況を報告し、ケースによっては協力を依頼し、継続的に本人を共に支えていく関係を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の理解・協力のもと、馴染みの家具や衣類等の持参依頼し、自宅における環境に近付け、又、面会依頼及び家族との外出等促し、関係が途切れないよう支援している。	なじみの場への想いを大切にして、家族にも働きかけている。関係維持が困難になった入居者のために慣れ親しんだ風景や自宅周辺を職員がビデオ撮りしてきて共に觀賞し、やすらぎが得られたこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングへの誘導も含め、入居者同士の触れ合う機会作りをし、共通の話題や軽作業の中から連帯感や気軽さ・心地良しさを感じて頂くような支援に努めている。		

【事業所名】ネオファミリー・和歌山 ユニット名:さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時、必要に応じ協力する旨を伝えており、終了後も関係を断ち切らない環境を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関係の中で、細かな事を含め入居者の要望・意向の把握に努め、意思を尊重している。入居者の自己ペースに配慮し、居心地の良い空間作りにも努めている。	個々の生活リズムに合わせた関わりをしている。意思疎通の回り方についても個性を尊重して、本人の思いや意向をスタッフ全員が把握できるように努め、本人主体を念頭においてケアが実施されている。	得られた情報を職員間で共有し、さらにその人らしさに沿ったケアが提供できるよう、アセスメントツールを活用して記録する等の工夫が望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報収集、又、その後の家族との関わりの中からも新たな情報収集をし、入居者個々の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の行動や健康状態を把握しており、細かな変化が見受けられれば、チーム全体で意見を出し取組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な会議等だけでなく、都度申し送り、口頭もしくは申し送りノートを活用し、意見交換を行い介護計画・モニタリングに反映させている。	スタッフ間の意見交換や確実な申し送りがされてチームケアができてはいるが、介護計画はやや抽象的であるため目標達成の内容が曖昧になっているところが見られる。	計画の内容がより明確になる目標を設定し、その人らしさを活かした具体的な援助内容を記載することで、職員間で共通意識を持ち活用しやすい計画となることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	チーム全員が個人カルテに詳細に記入、情報を共有し、介護計画に沿ったケアを実践している。時には介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況を考慮し、他のサービスの取り入れを視野に入れ、支援するよう努めている。		

【事業所名】ネオファミリー・和歌山 ユニット名: さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源(警察・消防・自治会長・民生委員)との関わりにより、安心した生活を送っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が当施設の協力医療機関の往診を希望される利用者が殆どで、必要に応じ主治医の紹介と家族の協力を得て、専門的な検査や診察を受けられる支援をしている。	かかりつけ医は本人や家族の希望を尊重している。ユニット毎に関わりの多い協力医療機関は異なっており、それぞれの医師による定期往診等の協力が得られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問時、訪問看護師への状況報告をし、都度指導及び指示を得られており、医療面を中心に適切な支援が図られている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書により入居者が安心して治療できる支援や、早期退院に向け家族や入院先担当医師との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナル期に於ける支援について、本人・家族と事前に納得いくまで話し合い、協力医療機関と家族・介護の連携により支援している。	本人や家族と十分に話し合い、希望があれば看取りケアも実施する。医療機関や家族との連携を密に行い、入院時には医療機関に対する情報提供を行い、退院時にはスムーズな受け入れが可能となるように体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを含め、緊急時焦らず冷静に行動出来るよう、会議等で話し合っており、又、ハイムリック法等実践訓練も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	中消防署との協力体制及び、全職員による定期的災害訓練にて避難方法ほか災害時必要不可欠な訓練を実施している。又、東北大震災に学ぶ勉強会を実施し、地震に備えた対応についても周知している。	消防署の協力を得て防災訓練は年2回実施している。事業所がマンションにあるため火災警報器はマンションと共有であるが、防災訓練は事業所単独で行っている。	事業所の防災訓練が近隣住民の防災意識向上に貢献できるようにマンション住民の参加を呼びかけ、ともに災害時の協力体制の構築を望みたい。

【事業所名】ネオファミリー・和歌山 ユニット名: さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の尊厳を重要視し、プライバシーを損なわないような対人関係を構築している。生活ペースを十分理解し、日々配慮している。	職員は一人ひとりの利用者の話を熱心に傾聴し尊厳の気持ちを持った呼び方や話し方をしている。プライバシーに配慮して、プライドを傷つけないように接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自己決定出来るような対人話法を用い、又、嗜好等の情報の中から、本人が満足する方向へ導く支援を心掛け支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを理解し、それに合わせたケアに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容サービス等個々に合った支援をおこなっている。衣類等の身だしなみに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の状態に応じた食の提供や摂取ペースの配慮をおこなっている。又、職員と一緒に食することで、入居者の食への安心や楽しむ環境が出来ている。	摂取ペースに配慮しつつ、食事中はスタッフや利用者同士の会話が弾み和やかである。入居者の意見を取り入れたメニュー作りで、調理や配下膳への参加は自主性を尊重している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の希望及び状態により、食事形態を変え、1,600Cal、1,200CC水分摂取量を基準とし、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の身体状況に応じ、声かけ、見守り、口腔ケアを実施し、口腔内の清潔保持に努めている。		

【事業所名】ネオファミリー・和歌山 ユニット名:さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助を伴う入居者については、排泄チェック表を活用しパターンの把握に努め、失禁予防、又、自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄リズムを把握して、さり気ない声掛けやトイレ誘導で失禁予防に取り組んでいる。入居時おむつを使用していたが、トイレでの排泄が可能になった例もみられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、繊維質摂取等を心掛け、生活サイクルの維持及び、離床促し等便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望日及び、時間帯についても自由に選択出来るよう支援している。又、同姓介助希望者があれば対応している。	入浴時間は本人の希望に沿うように支援している。入浴を嫌がる場合は原因を確認して解決策を講じている。本人のタイミングを見つけて声掛けをし、最低でも週に1回以上の入浴が実施できるように対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせてリズムが取れるよう配慮し、不眠者があれば日中の活動を考えたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、体調変化、気温変化等に応じ、主治医と相談の上、適宜処方して頂き服薬確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や興味事を発掘・把握し、支援できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に沿って、近所の公園に散歩に出掛けたり食材の買い出しやコンビニ等に買い物に出掛けて地域交流に努めている。	要望があればコンビニへ買い物に出かけられるよう個別に支援している。全員に声掛けを行い、公園へ散歩に出かける機会を設けている。また、職員とともに近くのスーパーへ食材の買い出しに出かけることもある。	以前実施していた外食の再開や公園へお弁当を持参するなど、日頃閉じこもりがちの人にも外出の機会が持てるよう、出掛けるのが楽しみになるような企画の工夫に期待したい。

【事業所名】ネオファミリー・和歌山 ユニット名: さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症状進行により、自己よる金銭管理が困難なため、実践出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、家族・知人への電話連絡等出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々居室の換気をおこない、室温・湿度の管理に努めている。又、四季折々の装飾品を飾り、季節感を取り入れ居心地良い空間作りにも努めている。	食堂とリビングは季節感を取り入れた手作りの装飾品や皆で制作した作品が飾られていて、家庭的な雰囲気である。共用スペースは十分な自然光が入り、リビングのベランダや窓から町の風景が眺められ季節や天候を感じ取ることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同リビングはやや手狭ではあるが、入居者がのんびり過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具等の持ち込みは少ないが、その人らしく過ごせるようテレビやテーブル、小物や家族写真等が持ち込まれている。	各個人の居室にそれぞれの個性が現れていて、その人らしさが大切にされている。本人や家族と相談して使い慣れた物や家族の写真に囲まれ落ち着いて過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札をつける事で、場所の把握に努め、混乱予防を行っている。又、手すり等、安全な施設環境を整えている。		